

## 第2回 なごや食育応援隊 座談会まとめ

日時 平成21年3月10日(火) 10時～12時

出席者 名古屋市健康福祉局健康部 月東食育担当主幹

個人参加 和西氏、石井氏、阿部氏、神谷氏、高橋氏、吉川氏、市村氏

企業参加 浜乙女 新美氏、イオンリテール(株) 桑原氏、東邦ガス 角田氏

進行 伊藤光弘

(目的) 食育応援隊の相互理解と連携による活動を広げるための座談会を開催し、ホームページに掲載することで、市民に対し食育の輪を広げていく契機とする。

(議題) ①なごや食育応援隊各人の自己紹介を含む日常的な食育活動内容の紹介

②現在までの食育関連イベントでの各人の関わり方

③食育イベントを進める上での各人の課題と懸案事項等

(参加者からの現状報告)

・名古屋市：今日は、応援隊の皆様相互の交流や理解と連携を深めていただくと共に、座談会を通じて食に関する考え方や活動のPRをしていただき、それを食育ホームページに掲載して市民の輪、市民の理解を広げる一つのきっかけにしていきたいと考えて企画いたしました。では、まず日常的な食育活動内容の紹介を自己紹介を含めてお願いします。

・和西：精進料理研究家で応援隊に参加しています。実家がお寺で両親が作る精進料理を子供の頃から味わって育ち、野菜は大事だなと感じていました。今は、子どもや大人の食事の大切さ考えるようになって、料理教室をやったり、なごや環境大学の活動をしたりしています。各種イベントに積極的に参加しています。

・石井：「親子で食育たのしみ隊」という名称で食育教室を展開しています。なごや環境大学では、空き田んぼなどを利用して「空気」「水」「土」をテーマに講座を開く予定です。教室は、いろんな所へ出前し、子どもと若いお母さんとコミュニケーションしています。

・阿部：栄養士と管理栄養士の有志の団体です。独居の高齢者が集まる場などで、食事の話や嚥下の筋力をアップする体操などを行っています。

・神谷：私どもは中央卸売市場の魚屋です。そして私はお魚マイスターの資格を持っています。市場は世界の漁場とダイレクトに繋がっており、地球環境の変化のホットな情報が一番先に入って来る所で、今後はそのような情報を生かしたい。

・高橋：2年くらい前から月1回親子で集まってもらっています。食の安全を考えたり、餅つ



きや味噌作りを行い、畑に行ったりもしています。

- ・市村：個人参加です。新潟の田舎に育って、子供の頃から家で漬物、味噌作りなどの発酵食品を作っていた。そういうことが今、食育という言葉になっている。それをもう一度子どもたちと一緒にやりたい。今は、お米と発酵に興味を持っています。
- ・吉川：料理教室を開催しながら、皆さんに食の大切さや料理の楽しさを伝えています。また、長久手町めぐりん村にある食育ブースで、健康的で調理の簡単なメニューの提案をさせていただいています。他に、愛知医科大学病院地域医療連携会発行の糖尿病患者さん向け冊子の編集・制作も行っています。
- ・新美：浜乙女でやっている食育活動は5つあります。一つ目は、幼稚園に浜乙女のキャラクターの「でえたらぼっち」と一緒に出向いて、園児とそのお母さんにおにぎりを食べていただくというもの、二つ目は、スーパーの店頭での食育のイベント、三つ目は年二回ほど栄で行っているテレビ局イベント、四つ目は年二回の料理教室で、浜乙女の商品を使ったレシピで料理を作り、五つ目は自社でゴマを作っていますので、ゴマ栽培日記をやっています。
- ・桑原：イオンリテールでは、『朝食を食べよう』とか、『食の安全安心』『地産地消』、メタボというような『健康』という切り口での商品開発を含めた商品の提供というかたちで会社としての方向性が出ています。
- ・角田：東邦ガスでは、これから食育という切り口で活動を進め、応援隊の皆さんと情報交換ができればと思っています。また、愛知県と三重県に料理教室が9か所あります。
- ・名古屋市：ありがとうございます。では次に、皆様の現在までの食育関連イベントでの各人の関わり方を教えてください。
- ・和西：食育という言葉は難しく感じるのが、かつて家庭でしていたことが食育という言葉になった。家庭でお母さん達がやっている事を発信し、食育で家庭の中が良くなることをするようにしている。
- ・石井：生協の組合員活動で食に関するイベントには多く関わって来ましたが、農水産省フェアでは朝食の必要性、手秤<sup>てばかり</sup>での食事量判断方法などを教え、出来るだけその後も参加者の活動が続く仕掛けを作っています。



- ・ 阿部：食に関する情報の氾濫と間違っただ情報による混乱を心配して、正しいことを伝えるようにしています。また、皆さんに「ああそうだったの。楽しいな。」と言っただけのようにもっていきたくて考えています。
- ・ 神谷：頼まれればどこへでも行くし、どんなことにも協力していく。自分たちがやって満足するのではなく来た人に何かさせるようにしたいとやっている。
- ・ 高橋：活動を進めていくうち、お母さん方の考えは中々変わらないことが解ってきたので、お母さん自身が食や健康に関心を持ち、心の豊かさを実感するにはどうしたらよいのかなと、調理を通して進めていくのが新たな展開です。
- ・ 吉川：スーパーや「あぐりん村」の店頭での料理の紹介を通じて、食料理の大切さや「食べることは楽しいこと」を実感してもらい、料理の楽しさを伝えるようにしています。
- ・ 新美：海苔の栄養についてクイズ形式で伝え、「朝食を食べよう！」ということを通じて伝えています。ひな祭りおにぎりや湿気った海苔の有効活用ということで、湿気った海苔の料理も行っています。
- ・ 桑原：行政とタイアップして、健康という切り口で商品開発の方向を探っており、場の提供と商品提供を実施しています。イベントは、3か月以上前からの企画で、期間や場所供等を検討しています。
- ・ 角田：全国を8つのブロックに分けて小学生の親子を対象にした「親子クッキングコンテスト」を行っています。またガス展を毎年秋口に行っており、その中で料理教室の講師やフードコーディネーターの方にご登場いただき、食育のステージを設けたりしています。今後は、ガスの炎を使った料理の大切さのPRを、食育を一つの切り口として展開していきたいと思っています。



- ・名古屋市：皆様、ありがとうございました。では最後に、食育イベントを進める上での各人の課題と懸案事項等あれば教えてください。
- ・和西：イベントは「押し付け」ではだめ。また、お金を払って来てもらうイベントよりお金をかけないでやる方が思いは伝わるような気がする。直接子どもに教える機会をつくりたい。
- ・石井：事前の仕掛け作りが必要で、イベント後に参加者が関われる引出しを広くしておくと思う。
- ・阿部：イベント開催でスポンサーがあるかどうかでやり方が大きく違うので、無いと八方塞がりになる。
- ・神谷：応援隊の皆さんがバラバラに活動しているものをコラボして、その成果として参加者に自分がやれる事を一つずつ気付いてもらうこと。
- ・高橋：お母さんの考えは変わらない理由について、あるお母さんから「食育と言っているいろいろな教えられても、自分は正しいことをしていると思っているから、それを食育という言葉で否定されていると感じる。」との指摘を受け、イベントの難しさを痛感しています。だからこそ、体験を通して参加者自らが「感動！気づき、発見」で生活を見直す内容にしていければよいと思います。
- ・市村：やりたいことがいっぱいあり、どこかの団体に所属して活動をしたいと思う。都会での土いじりと空き店舗でのイベント的な限定食作りや味噌作りの講座など継続してできたらと思う。
- ・吉川：「食育の運動」という大命題を作ると、皆さんは構えてしまう。「難しく」ではなく、心から楽しくゲーム感覚で「今日は得しちゃった！」という気持ちで帰ってあらためて食卓で考えてもらえるイベントが大切だと思う。
- ・新美：企業としてはイベントの「費用対効果」が求められ、参加者に自社製品を使った料理の美味さとレシピの展開をしたい。また、海苔は日本型食生活の普及に貢献できるのではないかと考えています。応援隊の方々からの海苔やごまを使ったレシピの協力をお願いしたい。
- ・桑原：「費用対効果」と社会的責任である部分では取り組んでいかなければと思っています。また、消費者への情報発信も会社としては非常に大切と考えています。
- ・角田：イベントの切り口で大切にしたいことが二つあって、一つは『体感・体験』だと思っています。もう一つの切り口は『親子』かなと思っています。

- ・名古屋市：本日いただいたご意見は今後の参考にしていきたいと思います。なお、平成 21 年 3 月末に開設する食育のホームページ「なごや食育ひろば」で、なごやの食育の情報を発信していきますので、こちらもご活用いただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。